

情報活用能力系統表（高学年）

【情報活用能力】

世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力（小学校学習指導要領解説 総則編）

A 知識及び	B 思考力、判断力、表現力	C 学びに向かう力・人間性等
(ア) 目的に応じてICT機器を選択して情報を集める	(ア) 目的に応じて、見つけた情報や整理した情報を比較したり、分類したりする	(ア) 電子メール・掲示板・SNS等の特性を理解し、適切に利用しようとする態度
(イ) 電子メールで情報を集める	(イ) 問題の解決に必要な情報を、視点を定めて整理したり、多面的に検討したりする	(イ) 適切な情報モラルを身に付け、情報に対する責任について考え行動しようとする態度
(ウ) 辞典や新聞記事等の多様なメディアから情報を集める	(ウ) 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして、活用しやすいように情報を整理する	(ウ) 他人の情報を大切に、適切に取り扱おうとする態度
(エ) 使用するICTの特性を生かしながら情報を集める	(エ) 引用したり、実例を挙げたりして、根拠や理由を示してまとめる	(エ) 身の回りの情報機器を、問題の解決や意図、目的に応じて適切に利用しようとする
(オ) 複数の資料から、目的に応じて特定の情報を見付ける	(オ) グラフや表を引用してまとめる	(オ) 情報技術のよさや価値を社会や自らの将来に関連付けて考える
(カ) 問題解決の手順を論理的に組み立てることのよさが分かる	(カ) 考えと根拠を区別してまとめる	
(キ) 収集した情報を、種類や内容に応じた適切な方法で蓄積する	(キ) 相手の状況に応じて、表現方法を工夫する	
(ク) 体験を通して、プログラムの働きやよさ、情報技術が社会を支えていることに気付く	(ク) 意図する一連の活動を実現するため、動きの組み合わせや意図した活動に近づく改善策を考える	
(ケ) 情報通信ネットワーク利用上のルールやマナーが分かる		

【考えるための技法】

- 【順序付ける】複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える
 - 【比較する】複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする
 - 【分類する】複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる
 - 【抽象化する（一般化する、統合する）】対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする
 - 【関連付ける】複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。ある対象に関係するものを見付けて増やしていく
 - 【多面的に見る・多角的に見る】対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする
 - 【具体化する（個別化する、分解する）】対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする
 - 【構造化する】考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する
 - 【理由付ける（原因や根拠を見付ける）】対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする
 - 【見通す（結果を予想する）】見通しを立てる。物事の結果を予想する
- ※発達段階に応じて活用したり、各教科等の学習において適切に発揮したりするようにする（詳細は小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編P80～）